令和5年度　学校評価書

学校名：　小中一貫南中G【大里東小学校】

静岡型小中一貫教育における特色ある教育活動

大項目	中項目	グループ校の評価指標	自己評価	学校関係者評価委員会から（小中一貫教育準備委員会等）	改善策（来年度の目標設定,具体的な取組目標）
【視点1】 学校の教育目標を グループ校で共有する	●グループ教育目標の「切り拓け　たくましく　心ゆたかに」を共有し、タフな人づくりを目指す	①　（独自）児童生徒は、どの子にも学校生活の中で自分から頑張っていることがある。 （学校説明）肯定的な割合は、児童89.7%、保護者89.2%とどちらも高かった。ステージや行事の目標を立て、活動後には振り返りを大切に行ったり、児童の頑張りを教員が善行賞で認めたり、ソーシャルスキルトレーニングなどで友達と認め合ったりすることで、自分の頑張りを自覚し、肯定的にとらえることにつながった。今後も、良さや頑張りを認め、自身が自覚できるようにしていきたい。	A	①様々な工夫された取組で児童自身ががんばりを自覚することができている。今後も、外部機関を活用したり、児童の頑張りを視覚化したりして、児童の得意なことを伸ばしていってほしい。 ②校内で公開授業を行い、研修を進めることで多くの学びや気付きがあったことが分かる。 ③家庭学習への取組について児童と保護者の意識の差がある。家庭学習が学習用端末で行われるようになったが、保護者・教職員が連携をし、児童の取組を見取れる体制を工夫したい。 ④学校は一人一人に応じた環境への配慮がなされている。「学校に行くのが楽しい」という設問に対して肯定的な割合が児童より保護者が高い。保護者には、児童を注意深く見守ってほしい。学校では、今後も児童同士が良さを認め合う環境をつくっていってほしい。 ⑥久能小との交流が有意義なものだったので、今後は、南中グループの他校とも積極的に交流し、横のつながりをもち、子ども同士の交流を進めていってほしい。 ⑦⑩児童にとって地域の学びは大切である。防災訓練や祭り等地域の行事に参加し、地域と連携していけると良い。自然・歴史のある素晴らしい地域の良さを更に児童が実感できると良い。 ⑧教職員の多忙の要因の一つとして、教職員数が少ないことが挙げられる。市に対して、教員の採用・確保を要望したい。 ⑪特別活動に力を入れ、魅力ある活動になっている。充実した活動を通して児童の自信につながっていくと良い。今後も異年齢集団の交流を充実させていってほしい。 ⑫挨拶は、全ての基本である。家庭も巻き込んで、様々な場での挨拶ができると良い。大人がお手本となって率先して挨拶をしていきたい。	①あらゆる教育活動や「なりたい自分」づくりなどの目標に向けたプロセス・振り返りを大切にし、児童自身が頑張りを自覚できるようにしていく。また、教職員が児童の頑張りを認めたり、友達同士で認め合ったりすることで、児童の強みを生かしさらなる自信につなげていく。
【視点2】 9年間の連続性、系統性 を強化した教育課程を編成・ 実施する	●系統的で連続的な学習指導の展開 ・資質・能力が身に付く授業づくり（**特色1**）	②　（独自）教員は、どの児童生徒も参加することを目指して授業改善を行っている。 （学校説明）児童が対話を通して、自分の考えを表現し「わかる」「できる」を実感する手立てをとっている教員の割合は100%であった。一人一公開の授業研究を行い、「対話により学びを深める姿とは」「単元を通して、必然性のある対話が生まれるタイミングはどこか」などについて研修を進めた成果といえる。今後も、子どもに確かな力を付けるための授業改善を続けていきたい。	A		②「対話を通して学びを深める」を研修テーマとして互いに学び合い授業改善を進めていく。また、教職員一人一人が主体的に研修に取り組めむために学びたいテーマ別のグループを作り、個別の研修も進めていく。教職員も個別最適な学びと協働的な学びをし、どの子にも資質能力を付ける授業づくりを推進する。 ③家庭学習については、3～6年生は学習の計画や授業での課題など何が必要かを児童自身が考えて、自主的に取り組むものを取り入れていく。また、第1回の懇談会において、家庭学習の手引きやデジタルドリルの見取り方について説明するなど、保護者への共通理解を図っていく。
	●系統的な家庭学習の充実 ・家庭での学習と生活リズムをつくる（**特色2**）	③　（独自）児童生徒は、家庭学習の手引きや学習計画表などを活用して、家庭学習に取り組んでいる。 （学校説明）「家庭学習の手引きを意識したり、チャレンジテストに向けて学習計画を立てたりして取り組んでいる」に肯定的な児童の割合は、71%であるが、保護者は50.6%にとどまり、児童と保護者の意識の差が大きい。年に2回、チャレンジテストを行い、学習計画を立て児童が自主的に学習を進めていく力を高める取組を行っている。今後は、チャレンジテストの時期に限らず、家庭学習やマイプランタイムを活用し、1ヶ月程度の計画を立て、自らの計画に基づいて見通しをもちながら自分で学習していく力を高めていきたい。	B		
	●系統的な生徒指導、特別支援教育の充実 ・主体的な学びにつながる生徒理解（**特色6**）	④　（独自）教職員は、積極的に情報交換をし、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導や支援をしている。 （学校説明）「学校に行くことが楽しい」と肯定的な児童の割合は、72.6%、保護者の割合は、80.7%であった。隔週で行っている職員打合せでは、児童の情報交換を行い共通認識のもと、一人ひとりに応じた支援に努めてきた。また、学習では、個々の児童に合わせた学びを充実させるため、それぞれの個性、特性に応じて学習を選択できる場を用意し、児童が学習しやすい環境を作った。今後も児童一人ひとりに合わせた支援を行っていきたい。	A		
【視点3】 教職員の協働、児童 生徒の交流	●小中一貫教育研修会における協働 ・5つの推進部会の設置 ・合同夏季研修会の開催（**特色3**）	⑤　（指標23）教職員は、学校や校種の枠を超えて、連携を図っている。 （学校説明）肯定的な教職員の割合は84.6%で、昨年度の78.6%より上回った。夏季研修会で行った、9年間を見据えた特別支援教育や防災教育、同学年間などの情報共有はとても有効だった。また、授業を見合う会で、他校の授業を参観したり本校の子どもの表れを参観してもらったりすることで、南中Gの児童生徒の成長や課題を考える機会になった。	A		⑤夏季研修などの全体研修会で情報共有を行っていくと共に、他校の同学年間の教職員連携を図り、教職員・児童同士の交流を行っていきたい。 ⑥南中グループの児童生徒と交流を行うことで、様々な人との関わりをもてるようにし、視野を広げたり、表現する力を高めたりしていく。
	●児童・生徒間交流 ・南中グループ校との交流（児童・生徒代表者会議、小小・小中連携交流の取組）（**特色3**）	⑥　（独自）児童生徒は、小小や小中の交流を通して、学びを広げたり、深めたりしている。 （学校説明）「久能小学校の友だちと行った授業が楽しかった」と肯定的な児童の割合が、98.1%だった。児童アンケートでは、今年度のことだけではなく、昨年度の交流体験を含めた感想を書いている児童もいたことから、小学校同士の連携が児童にも浸透してきている。今後も南中グループ校の児童として交流の機会を考えていきたい。	A		
【視点4】 地域との連携	●南中ｸﾞﾙｰﾌﾟを支える小中一貫教育を支える組織との連携 ・学校運営協議会との意見交換 ・地域学校協働本部の積極的な活用 ・地域素材、人材を活用した学習の展開　（**特色9**）	⑦　（指標24）学校は、地域と協力して教育活動を行っている。 （学校説明）肯定的な教職員の割合は100%だった。地域学校協働活動推進員にご協力いただき、学校ボランティアを募って、水泳の見守りや、家庭科のミシンボランティア、総合学習のグループ活動の引率など、児童の安全を守り、学習を充実させることができた。また、地域の人材を活用して、地域の自慢や活性化について考え、大里東小学区の良さを実感することができた。今後も、様々な場面で地域の方にご協力いただき、学びを充実させていきたい。	A		⑦教職員は様々な学習活動や行事の見通しをもって、学校ボランティアや地域の方へ協力を依頼し、連携を図っていく。地域の教育資産を活用し、探究的な学習を進めていくことで、郷土愛へとつなげていく。
学校環境	●教師の業務改善 ・見通しをもった教育計画を策定し、業務を精選して遂行する ・活動実施後は振り返りをもとにPDCAサイクルに生かす	⑧　（独自）教職員は、行事や活動の精選・見直しをし、業務の効率化を図っている。 （学校説明）肯定的な教職員の割合は、69.2%で昨年度よりやや上回った。打合せを隔週にしたり、会議では要点を絞り時間内に終了するように心がけたりした。しかし、様々な事が重なる多忙な時期があったので、今後、行事の時期や内容を精選していく必要がある。	B		⑧PDCAサイクルを回し、行事の時期や内容を精選したり、会議の日の日課変更をしたりするなど、教職員の負担を減らしていく。クロームブック等を活用し、デジタル化による校務の効率化を図る。
グループ校の軸となる取組・活動		グループ校の評価指標	自己評価		
「道徳教育の充実（心づくり）」　（特色8） ①小中で道徳の重点項目を共有し、9年間の道徳授業を大切にする ②「自分事として捉え議論する（話し合う）授業展開 ③全校道徳の実施		⑨　（独自）児童生徒は、道徳の授業において、自分事として捉えて考え話し合っている。 （学校説明）肯定的な児童の割合が81.7%だった。道徳を全校金曜日の1時間目に位置付け、自分事として考える授業を積み重ねてきたことと、学活と連動させた全校道徳を行ったことが、児童の実践意欲を高められた成果だと考える。今後も振り返りを大切にした道徳を展開していきたい。	A		⑨自分事として考えることを大事にしたり、家庭でも授業の内容について話し合ったりするなど、多面的、多角的に考えられるようにする。また、道徳と学活をつなげ、実践的態度の育成をしていく。 ⑩生活科や総合的な学習の時間で地域のお店や施設の方々にご協力いただき、見学や体験活動を通して児童が学区の素晴らしさを実感できるようにしていく。 ⑪黒潮班活動で、計画、話し合い、実施、振り返りのサイクルを大切にし、異年齢交流活動を充実させていく。 ⑫決められた場の挨拶ではなく、自然な挨拶ができるように道徳や学活の時間を使い素地を耕していく。
「地域や社会とつながる力を育む”南中グループの探究”」　（特色9） ①地域・社会教材を活かした探究的な学び ②「しずおか学」として命の学習・防災学習		⑩　（独自）児童生徒は、自分の住んでいる地域に良さがあると感じている。 （学校説明）肯定的な児童の割合は80.5%と高く、自分の地域の良さを実感しているととらえることができる。生活科や総合の学習で、地域の様々なお店や施設の見学・インタビューをさせていただき、地域のあたたかさや、素晴らしさをまとめながら、地域のことを深く学ぶことができた。	A		
「特別活動の充実」　（特色5） ①児童会・生徒会活動、学級活動、学校行事、部活動を通した児童生徒の自発性の育成		⑪　（独自）児童生徒は、行事や特別活動で、自ら考え、判断し、行動している。 （学校説明）「黒潮班活動で友だちと協力している」肯定的な児童の割合は89.6%だった。班長を中心に様々な活動を計画し、実行することができた成果といえる。さらに、振り返りを丁寧に行うことで、次の活動に「良かったこと・改善すること」を反映することができた。	A		
「心かようあいさつ（人間関係づくり）」　（特色7） ①9年間の学校生活全体を通したあいさつ指導 ②地域や市民の一員として必要な社会性を身に付ける活動		⑫　（独自）児童生徒は、「心かよう、気持ちのよいあいさつ」をしている。 （学校説明）肯定的な割合は、児童80.5%、保護者78.4%だった。児童会で行っている朝の挨拶活動の場だけでなく様々な場で自然な挨拶ができるよう、児童会を中心に活動を充実させていきたい。	A		

各学校の評価

大項目	中項目	評価指標	自己評価	学校関係者評価委員会から（小中一貫教育準備委員会等）	改善策（来年度の目標設定,具体的な取組目標）
重点目標 「考えよう　動き出そう　自分から」	●重点目標達成のための具体策 （1）「思いやりのある子」「学びを楽しむ子」「たくましい子」 （2）ステージごと目標の設定・振り返り	⑬　児童は、重点目標を意識し、行事や生活の中で自分から考えたり行動したりしている。 （学校説明）肯定的な児童の割合は72%だった。「自分から行動する」意識は高まってきたと思われるが、「自分で考える」点については、まだ課題があるととらえている。ステージごとに目標を立てた後、継続して意識を持たせる手だてをもち、日々の生活の中で、立てた目標を意識できる活動を行っていきたい。	B	⑬「自分で考える」という課題に対して、具体的な方策を考え、取り組んでいってほしい。	改善策（来年度の目標設定,具体的な取組目標） 教職員が、児童の「なりたい自分」の姿へのサポートを行い、自分づくりを進める。児童の自分で考え行動する過程を認めたり、時には動き出しを待つなど、あらゆる場で児童に考えさせたり動きを後押ししたりするようにしていくことで、児童の意欲や自信につなげていく。

静岡型小中一貫教育における共通となる教育活動（全国調査等の活用）

		中項目	評価指標	学校関係者評価委員会から（小中一貫教育準備委員会等）	改善策（来年度の目標設定、具体的な取組目標）
学力の状況 （全国学力・学習状況調査）	小学校	（学校説明） ［国語］成果・・目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約したり、書き表し方を工夫したりすること。 課題・・複数の情報を整理して自分の考えをまとめたり、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えたりすること。 ［算数］成果・・伴って変わる二つの数量の関係や割合など「変化と関係」に関する領域。 課題・・事象を数理的に捉え、大小や違いなどを判断し、その理由を式や言葉を用いて記述すること。	表現する機会を多く設定し、力を付けていくと良いのではないか。	・朝のモジュールでは、国語「書く」時間の内容を見直し、自分の考えを書く力を付けていく。また、各教科でも様々な学習場面で自分の考えを書いたり、振り返りを行ったりして表現力を高めていく。 ・家庭学習のあり方を見直し、児童が計画的・主体的に学習に取り組み、力を付けていくよう支援をしていく。
	中学校	（学校説明）国語・数学の2教科は全国平均と県平均を上回り、英語はやや下回るという結果であった。国語においては「我が国の言語文化に関する事項」と「読むこと」の力が、数学においては「数と式」「データの活用」の力がついていることが分かった。ただし、英語において顕著であるが、「聞くこと」と「話すこと」に対する苦手意識が窺える。そこで、各教科において、現在以上に表現活動へ力を入れたい。その際は、「話す」力や「聞く」力の向上にとどまらず、自分の考えを再構成、つまり、深い学びをするための手だてとなるよう、研修で取り上げ、組織的により良い方法を模索していく。		
体力の状況 （新体力テスト、全国体力・運動能力、運動習慣調査）	小学校	（学校説明）本校の新体力テスト記録と静岡県平均記録（令和5年度）を比較すると、握力・上体起こしにおいては県平均を上回っている。しかし、反復横跳びや20mシャトルランにおいては県平均を下回っている。また5年生が行った質問紙調査では、1週間の総運動時間が1時間未満の割合が男女ともに全国平均よりも高いことがわかった。11月の時間走月間中に、朝、運動場に音楽を流したり、がんばりカードを配布したりすることで、多くの児童が毎日自主的に体を動かす姿が見られ、持久力アップに励んだ。	持久走の時期だけでなく、年間を通して体力の向上を図っていくと良い。大谷選手のグローブ寄贈のように、何かをきっかけに楽しく体を動かせると良いのではないか。	・運動会前や新体力テスト前、時間走月間において、児童が目標をもって主体的に運動に取り組めるように環境を整えていく。 ・体育委員会と協力して、楽しみながら体力の向上を図ることができる運動を提案していく。
	中学校	（学校説明） 南中学校の新体力テスト記録と静岡県平均記録（令和3年度）を比較すると、50m走・立ち幅跳び・ハンドボール投げ（瞬発力・スピード）においては県平均を上回っている。しかし昨年度に引き続き、上体起こし（筋力・筋持久力）においては三学年男女で共通して県平均を下回っている。			
生徒指導の状況 （学校いじめ防止基本方針）		（学校説明）年3回の悩み事アンケートを大切にし、児童理解に努めた。今年度は、悩み事アンケートを家に持ち帰り、児童が安心して悩みを書ける機会をとった。提出されたアンケートを基に、児童に話を聞いたり悩みの解消にむけて解決策を考えたりし、児童が安心して学校生活を送れるように心掛けた。職員間では、打ち合わせの時にクラスの子どもについて職員間で共有する時間を昨年度同様にとり、学校全体で子どもを見守る体制ができている。	児童の悩みに対して真摯に対応している。アンケートに文で書く難しさがあるかもしれない。思いを引き出しやすくする工夫をするのはどうか。	年3回の悩み事アンケートの場で、書き方の具体的な例を提示するなど説明を丁寧にして、児童が悩みを書きやすいようにしていく。また、年に1度は悩み事アンケートを家に持ち帰り、落ち着いた中で書くことができるようにしていく。